

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

東京でタクシーに乗るときは、何となく心配になる。京都のタクシーに乗りつけている人間にとっては、だいぶ様子が違うからである。京都のタクシーの運転手さんは何かと話しかけてきたり、行き先を言っても知らないなどということはずくない。

東京は広すぎることもあって、行き先を言っても「知らない。」と言われる。それが何となく、ぶつきらぼうの感じがする。近距離のときなど、乗せていただけましようか、というような気持ちになったりする。これはおそらく、お上りさんのコンプレックスのなすわざであるう。

ところが、先日、東京で乗ったタクシーの運転手さんは違った。まず「お客さん、新芽が美しいでしょう。」ではじまった。窓外に目をやる

と皇居周辺の木々の葉が、実に美しい。「銀杏の新芽はいいですね。」「見てください。あれは楠ですよ。」という具合である。

私は実のところ木が大好きなのである。「松もいいですね。」と言うと、「この手入れが大変なのです。何しろ一本一本、手でするわけですから。」という具合で、目的地に着くまで、二人でさんさん「木」の話を楽しんだ。降りてからもさわやかな気がして、これで東京のタクシーに対する私の偏見もだいぶ正された感じがした。

私は木が好きで、と言っても盆栽いじりをするよりは、自然の木を見る方が好きである。だから外国に行つて、森の中を歩いたり、川べりに立ち並ぶボブラを見ていたりするだけで嬉しくなる。その国特有の木があり、たまたまがある。

昨年、ミネアポリスの箱庭療法研究会から招かれて行つたとき、半日の休日をどうしてすこすか、「あなたの見たいものは何か。」と主催者に言われたので「自然の中の木。」と言うと、「いい考えがある。」というわけで、自転車に乗ってミシシッピ川沿いの峡谷を走り、新緑の木々を見て楽しむことになった。

昨年、このアメリカに二カ月滞在したのだが、このことは忘れられない思い出となった。何しろアメリカのいいところは、土地が広く人が少ないことだ。車ではなく自転車で走る方がはるかに自然に近い。大木の姿のいいのなどに会おうと、「何年くらいここに居るの。」「たくさんインディアンの人たちを見たんだろうね。」などと話しかけたくなる。

動物好き、植物好き、鉱物好き、人さままでである。そしてそのそれぞれに特徴がある。私はなぜ木が好きなのかと思う。いろいろあるが、特に大木などになると、そのペースのゆつくりしたところが好きなのではないかと思う。三百年、四百年という寿命を保っている。それに成長のペースもゆつくりである。

動物はベットなどどうしても人間のペースに合わせて訓練されるし、野生の動物は大きいになると怖くなる。それに対して自然のなかの大木は傍らに寄つてゆくこともできる。動かずに静かにしているところもいい。

それに、木の姿を見ていると『庄子』のなかの「無用の用」の話を思い出す。

簡単に紹介すると、大工の石は巨大な櫓が神木として祭られているのを見るがまったく無視してしまう。この木は舟をつくれれば沈むし、柱にすれば虫に食われるという具合で、まったく無用の大木であることを知っていたからである。ところが、石の夢にこの櫓の大木が現われ、次のように語った。

「有用」な木は、果実のためにもぎとられて枝を折られたり、切り倒して何かに使われたりで、天寿を全うできない。結局は、自ら長所と思うところによって自分の命を縮めている。

これに対して、自分は無用であろうとつとめてきた。無用のために自分を求める人もないし、自分はおかげで大木となっている。まさに大用をなしているのである。

このように櫓が語るのを聞いて、石は無用の用の意味を悟る。

このような木のイメージを知ることについても、私のしているカウンセリングは、木のイメージと重なる部分が多いように思う。カウンセリングの仕事は動物をしつけるようなことではなく、木の成長を待つようなところがある。

成長のための条件を整え、後は相手のもつ成長への可能性の発現を待つばかりなのである。それを焦って肥料のやりすぎなどと、枯れてしまつたりするところもよく似ている。そんなわけで、私は大木の姿を見て楽しんでるが、そのうちだんだんと「無用」になつてゆくのではないかと思つている。

(河合隼雄「木」による)

*注 ミネアポリス——アメリカ合衆国ミネソタ州の都市。ミシシッピ川上流沿いにある。

箱庭療法——箱庭を利用した精神的療法の一つ。

インディアン——アメリカ先住民。現在では「ネイティブ・アメリカン」と呼ぶことが多い。

『庄子』——古代中国の思想書。石——人名。

カウンセリング——カウンセラーが心の悩みや病気を持つ人と話し合うことで、治療の手助けをすること。

問一——線部1「乗せていただけましようか、というような気持ち」とありますが、これはどのような気持ちですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア どこまで乗せてもらええるのか楽しみにする気持ち。

イ なかなか乗せてもらえずいらする気持ち。

ウ 乗せてもらええるかどうか不安な気持ち。

エ 乗せてもらえないのかとがっかりする気持ち。

オ ようやく乗せてもらえると喜ぶ気持ち。

問二——線部2「東京のタクシーに対する私の偏見」とありますが、筆者は東京のタクシーにどのような印象をもっていたのですか。それにあたる言葉を問題文中から六字でぬき出して答えなさい。

問三 ———線部3「たくさんのインディアンの人たちを見たんだろうね」とありますが、このときの筆者の気持ちはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 自転車に乗ってミシシッピ川沿いの峡谷を走り、新緑を見て楽しんできた喜び。
- イ 自然のなかの原木が動かず静かにしており、近づくことができることへの安らぎ。
- ウ 三百年、四百年という寿命のなかで様々なものを見つめてきた大木に対する親しみ。
- エ 果実のために枝を折られたり、切り倒して使われたりせず立っている木への敬意。
- オ 土地が広く人が少ない、すばらしいミシシッピの地に生きてきた人々へのあこがれ。

問四 ———線部4「焦って肥料のやりすぎなどすると、枯れてしまったりする」とありますが、これはカウンセリングでいうと、どのようなことにあたりますか。考えて答えなさい。

問五 ———線部a「コンプレックス」は「自分が相手よりおとつているという感情」という意味ですが、このように「〜ックス」という形で、次の1～4の意味になる外来語を答えなさい。

- 1 正統的であるようす。
- 2 最高に盛り上がったところ。
- 3 高級でぜいたくなようす。
- 4 くつろいでゆつたりとした気分になること。

問六 ———線部b「ゆつくり」とありますが、このように「□□□□」という形のひらがな四字の言葉で、次の各文の（ ）に入れるのに適当なものをそれぞれ答えなさい。ただし、始めの一字は後から選ぶこと。また、同じ言葉を二度用いてはいけません。

- 1 お菓子をたくさんもらったので、いくら食べてもまだ（ ）残っている。
- 2 故郷をはなれて二十年、この辺りの景色も（ ）変わってしまった。
- 3 春のやわらかい雨に打たれて、石だたみが（ ）とぬれている。
- 4 友達と遊びに行ったので、（ ）宿題は終わっていると思っていたよ。
- 5 そうぞうしい通りから一步入ると、（ ）として音もない。
- 6 遊びほうけていたので父から（ ）油をしぼられた。

「二字め」こ・し・す・た・て・ひ

問七 ———線部c「無用の用」とありますが、このように「□□の□」の形の言葉で、次の説明にあてはまるものをそれぞれ答えなさい。ただし、□には漢字一字が入ります。

- 1 他の人よりも経験などが少しすぐれていること。
- 2 おさないころからのなじみのこと。
- 3 よその出来事でも、自分をみがく助けとなること。
- 4 争いにつけこんで第三者が得をすること。

二 次にあげたのはそれぞれ動作や状態を表す言葉です。各群の□□に共通するひらがな二字を入れて、言葉を完成させなさい。

- 1 う□□□ いろ□□ とき□□
- 2 むし□□ つい□□ あせ□□
- 3 いき□□ さか□□ うず□□
- 4 うす□□ やわ□□ やす□□
- 5 いて□□ ぐず□□ かさ□□
- 6 かた□□ はか□□ ふち□□

三 各群の——線部の季語（全てひらがなにしてある）はどの季節のどのようなものですか。俳句をよく読んで、それぞれ最も適当なものを後のア～エから選び、記号で答えなさい。

- 1 新しき枕眠れずもがりがぶえ 星野椿
- もがりがぶえ風の又三郎やあーい 上田五千石
- 一湾の春まだ遠きもがりがぶえ 富安風生
- ア 春、朝を知らせる鳥の鳴き声。
- イ 夏、山歩きのとくに吹く笛。
- ウ 秋、夕暮れごろ鳴く虫の声。
- エ 冬、夜に風の立てるかすれた音。

2 ういてこいういてこいとて沈ませて

長子次子稚くて逝けりういてこい

ういてこい瞬きひとつせぬひまに

ア 春、木にぶらんこをかける遊び。

イ 夏、水に入れて遊ぶ子供のおもちゃ。

ウ 秋、風船を空に飛ばす行事。

エ 冬、川に住むとんぼの幼虫。

3 てんかふんしんじつ吾子は無一物

てんかふん額四角にたたきやる

てんかふんまだ土知らぬ土踏まず

ア 新年、もちにまぶす粉。

イ 春、花見のときに食べる粉菓子。

ウ 夏、汗止めに用いる粉。

エ 冬、朝に積もったまっさらな粉雪。

4 明くる夜もほのかに煙しよめがきみ

三宝に登りて追はれよめがきみ

囁られし写楽の顔やよめがきみ

ア 新年、ねずみの別名。

イ 春、へびの別名。

ウ 夏、ごきぶりの別名。

エ 冬、すすめの別名。

宝井野角
高浜虚子
阿波野青畝

鷹羽狩行
久保より江
古賀まり子

京極紀陽
能村登四郎
佐藤和枝

四 次の説明にあたる漢字三字の熟語をそれぞれ答えなさい。ただし、必ず「舌・面・骨・耳・眼」のいずれか一字をふくみ、同じものは二度使えないものとします。

- 1 うそや食いちがうことを言うこと。
- 2 他人の話を聞いて物知りになること。
- 3 遠くのものやかくされたものを見る力。
- 4 その人や物が本来持つてゐるすぐれたあり方。
- 5 はじ知らずですうずうしいこと。

五 次の各文の——線部が正しければ○を解答らんに記し、まちがっている場合は同じ字数で正しい表現に直しなさい。

- 1 かれはこの地域の犯罪をなくそうと心血を傾けて対応してきた。
- 2 細かいところまでは目が回らず、失敗が起こってしまった。
- 3 伝統的な作法にのっとり、結婚式が古式ゆたかにとり行われた。
- 4 問題の焦点がぼやけてきた場面での、的を射た意見に感心した。
- 5 私では役不足ですが、精いっぱいといめさせていただきます。

六 次の各文を完成させるのに適当な語を後のア～カから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものは二度使えないものとします。

- 1 方向はいいと思うんだが、（ ）君の提案は内容が難しすぎるよ。
- 2 自分でしなければならぬことを、（ ）親にたよりがちだ。
- 3 見てもいないものを、（ ）見てきたかのように語る。
- 4 （ ）人間として生まれた以上、思いやりの心がないはずがない。
- 5 かれらをあまく見てはいけぬ。かれらの能力をあなどる（ ）だ。
- 6 こういう場合は、にげるに（ ）だ。

ア あたかも イ いかんせん ウ およそ
エ しかず オ なかれ カ ややもすれば

七 次の「条件」に合うように、漢字のしりとりを完成させなさい。

〔条件〕

- ・使われる漢字はすべて音読みで、毎回同じ読み方で用いなければならない。
- ・各組のX・Yの読み方は同じである。
- ・各組五つの字はすべて異なる字である。

〔例〕

X	念	念	a	a	誓	誓	b	b	事	事物	物	c	c	X	X	Y	Y	歯
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---

(答え) X 疑 Y 義 a 願 b 記 c 質

1	発	X	X	店	店	a	a	a	b	b	通	通	c	c	X	X	Y	Y	収			
2	安	X	X	理	理	a	a	a	放	放出	出	b	b	在	在	c	c	X	X	Y	Y	体

受験番号

◎ 解 答 に 字 数 制 限 の あ る 場 合 、 句 読 点 な ど の 記 号 も 字 数 に 数 え ま す 。

問 七				問 六						問 五				問 四			問 三	問 二	問 一
4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	4	3	2	1						
				っ	っ	っ	っ	っ	っ										
の	の	の	の	り	り	り	り	り	り	ックス	ックス	ックス	ックス						

七

2	1
X	X
Y	Y
a	a
b	b
c	c

六

1
2
3
4
5
6

五

5	4	3	2	1

四

5	4	3	2	1

三

1
2
3
4

二

4	1
5	2
6	3